さいたま市立中尾小学校　１０月号（第５２５号）　令和８年９月３０日

中尾小だより

知・徳・体の調和のとれた
心豊かな児童の育成
学びいっぱい　優しさいっぱい　元気いっぱい

〒３３６-０９３２　さいたま市緑区中尾２５９６－１
ＨＰ　http:nakao-e.saitama-city.ed.jp　　ＴＥＬ　048-873-0216　　ＦＡＸ　048-810-1120

自然との共生を考える

校　長　　石　田　成　夫

連休中の台風接近をはじめ、９月の長雨や線状降水帯による各地の水害など、近年の気象状況は私たちのこれまでの常識を大きく変えつつあります。治水や防災について、これまでの経験則だけでは十分とは言えない時代を迎えているように感じます。

地域や保護者の皆様におかれましては、日頃から避難場所や連絡方法の確認、家庭での備蓄など、「まさか」の事態への備えを進めていただきたいと存じます。学校でも引き続き、安全を第一に考えながら防災教育や危機管理の充実に努めてまいります。

さて、９月１０、１１日の二日間で、６年生と共に日光へ修学旅行に行ってきましたが、今年の日光は例年とは少し異なる姿を見せていました。夏の雨不足の影響で中禅寺湖の水位が下がり、遊覧船は運航できませんでした。また、熊の出没情報を受け、子どもたちの安全を最優先し、戦場ヶ原ハイキングを中止とさせていただきました。自然環境の変化が、私たち人間の活動に影響を及ぼすことを実際に体験した旅行でもありました。


今年は落ちる水が少なく
横風にたなびく華厳の滝

その一方で、子どもたちは思いがけない体験をすることもできました。道路脇には何度も猿の群れが姿を見せ、鹿とも遭遇しました。同行したバスガイドさんも驚くほどの頻度だったそうです。車窓から見える野生の動物たちに、子どもたちは目を輝かせながら歓声を上げていました。

近年、熊をはじめ、猿、鹿、狐など、野生動物が人里近くに現れるニュースを耳にする機会が増えています。人間の生活圏と野生動物の生息域との境界が、以前より曖昧になっているのかもしれません。私たちは時として、それを「動物が人間の世界に入ってきた」と捉えます。しかし見方を変えれば、人間の活動が自然環境にさまざまな影響を与え、その結果として動物たちの暮らし方も変わらざるを得なくなっているとも考えられます。

今回の修学旅行は、自然との共生について考えるよい機会となりました。自然は人間に豊かな恵みを与えてくれますが、そこには多くの生き物が暮らしています。私たちは自然を利用する存在であると同時に、自然の一員でもあります。だからこそ、自分たちの都合だけで考えるのではなく、他の生き物たちとのつながりや自然環境全体のバランスにも目を向けることが大切なのではないでしょうか。

異常気象や自然災害の増加、そして野生動物との距離感の変化。こうした出来事は、一見別々の問題のようでいて、「人間と自然との関係」を改めて問いかけているように思います。

子どもたちには今回の経験を通して、人も動物も同じ地球に生きる仲間であることを見つめ直し、自然と共に生きる姿勢を学んでほしいと願っています。学校でも、未来を担う子どもたちが自然とのよりよい共生の在り方を考えられるよう、さまざまな教育活動を進めてまいります。

読 書 ま つ り　～秋のファミリー読書のお願い～

１０月は「読書まつり」として、さくらんぼ読書郵便やさくらんぼ読書交流会、図書集会、秋のお話会など、子どもたちが本に親しむための様々な取組が予定されております。そこで、保護者の皆様におかれましては、「ファミリー読書」へのご協力をお願いします。１０月５日（月）に記録用紙を配布いたしますので、９日（金）までの５日間の様子を記録していただき、１３日（火）に子どもに持たせてください。読書を習慣化するきっかけとして、また読書を通した家族のふれあいの時間としてご活用ください。